

令和6年度 第2回教育課程編成委員会

令和6年11月18日(月)13:00～15:00
国際園芸アカデミー 研修室BC

1 開会

2 あいさつ

3 検討事項

(1) 令和6年度前期カリキュラムの実施状況について

・令和6年度 開講科目一覧

資料1

・令和6年度前期 授業評価アンケート結果

資料2-1

資料2-2、2-3

(2) ぎふワールド・ローズガーデン(以下、ぎふ WRG)における授業開講について

・令和6年度 ぎふ WRG を活用した授業実績(前期)

資料3-1、3-2

・分野別授業の実施状況

① 花き生産流通分野 栽培・生産論

資料4-1

② 花き装飾分野 装飾技術スキルアップ実習

資料4-2

③ 造園緑化分野 花修景実習Ⅲ

資料4-3

④ 文化・利用分野 盆栽実習

資料4-4

・令和7年度 ぎふ WRG を活用した授業計画

資料5

4 意見交換

「20年の歩みを踏まえて、これからのアカデミーに期待すること」

資料6

5 閉会

令和6年度 第2回 国際園芸アカデミー 教育課程編成委員会 委員名簿

	分 野	所 属 ・ 役 職	氏 名	備 考
委員長	教職員	岐阜県立国際園芸アカデミー 学長	今西 良共	
委員	学識経験者	岐阜大学応用生物科学部 副学部長	山田 邦夫	Zoom出席
委員	花き生産業界(切花)	ユーティローズ 代表者	宇野 充辰	
委員	花き生産業界(鉢花)	(有)セントラル ローズ 代表取締役	大西 裕	
委員	花き装飾業界	クニイ園芸	國井 理佐	
委員	造園緑化業界	昭和造園土木株式会社 代表取締役	日比 真一	
委員	流通業界	名古屋園芸株式会社 代表取締役	小笠原 誓	(欠席)
委員	行政機関	岐阜県農政部 農産園芸課長	宮田 和也	
委員	教職員	岐阜県立国際園芸アカデミー 教授	臼田 浩通	
委員	教職員	岐阜県立国際園芸アカデミー 教授	相田 明	

<事務局>

役 職	氏 名
岐阜県立国際園芸アカデミー 顧問	古澤 達也
岐阜県立国際園芸アカデミー 副学長	井戸 誠二
岐阜県立国際園芸アカデミー 准教授 ＜花き装飾コース＞	林 誠
岐阜県立国際園芸アカデミー 准教授 ＜造園緑化＞	新井 俊宏
岐阜県立国際園芸アカデミー 教務課長	山本 芳範
岐阜県立国際園芸アカデミー 教務係長	伊藤 美由紀

○マイスター科 1年（前期）開講科目

No.	分野	区分	科 目 名	担当教員	時間数
1	花き生産流通	必修	栽培・生産論	臼田	30
2	花き生産流通	必修	植物生理学	前田	30
3	花き生産流通	必修	花き生産実習	臼田	90
4	花き生産流通	必修	園芸流通概論	臼田	30
5	花き装飾	必修	園芸装飾実習Ⅰ	吉田	30
6	花き装飾	必修	フラワーデザイン実習Ⅰ	林	60
7	花き装飾	選択	3級園芸装飾技能検定対策実習	村瀬	30
8	花き装飾	選択	3級フラワー装飾技能検定対策実習	安保	60
9	造園緑化	必修	造園学概論	相田	30
10	造園緑化	必修	花修景実習Ⅰ	相田	30
11	造園緑化	必修	造園施工・管理実習Ⅰ	新井	60
12	造園緑化	選択	3級造園技能検定対策実習	新井	45
13	マーケティング	必修	商品動向リサーチⅠ	臼田	15
14	植物管理	必修	植物管理基礎実習Ⅰ	吉田	60
15	国際性	必修	Global Communication in HorticultureⅠ	大脇	30

必修	495
選択	135

○マイスター科 1年（後期）開講科目

No.	分野	区分	科 目 名	担当教員	時間数
16	花き生産流通	必修	イベント販売実習	前田	15
17	花き生産流通	選択	生産マネージメント実習Ⅰ	臼田	60
18	花き生産流通	選択	生産課題解決演習Ⅰ	臼田	45
19	花き装飾	選択	園芸装飾実習Ⅱ	吉田	30
20	花き装飾	選択	フラワーデザイン実習Ⅱ	林	60
21	造園緑化	必修	花修景実習Ⅱ	相田	30
22	造園緑化	選択	造園施工・管理実習Ⅱ	新井	60
23	造園緑化	選択	測量実習	新井	30
24	造園緑化	選択	製図実習	新井	30
25	造園緑化	選択	CAD製図実習	相田	30
26	造園緑化	選択	イベントディスプレイ実習	新井	30
27	マーケティング	必修	商品動向リサーチⅡ	臼田	15
28	マーケティング	選択	商品開発演習	小笠原	30
29	マネージメント	必修	キャリアデザインⅠ	佐藤	30
30	マネージメント	必修	起業・経営シミュレーション	佐藤	30
31	文化・利用	選択	園芸色彩学	荏原	30
32	文化・利用	選択	いけばな	片倉	15
33	文化・利用	選択	園芸福祉論・実習	相田	30
34	植物管理	必修	植物管理基礎実習Ⅱ	吉田	30
35	国際性	必修	Global Communication in HorticultureⅡ	大脇	30
36	就業体験	必修	インターンシップⅠ	各コース担当教員	120

必修	300
選択	480

Oマイスター科 2年（前期）開講科目

No.	分野	区分	科 目 名	担当教員	時間数
1	花き生産流通	選 択	生産マネージメント実習Ⅱ	白田	120
2	花き生産流通	選 択	生産課題解決演習Ⅱ	白田	60
3	花き生産流通	選 択	基礎育種学	前田	30
4	花き装飾	選 択	フラワー装飾演習	林	60
5	花き装飾	選 択	ウェディング実習	脇田	30
6	花き装飾	選 択	フューネラル実習	村瀬	30
7	花き装飾	選 択	装飾技術スキルアップ実習	吉田	45
8	花き装飾	選 択	2級園芸装飾技能検定対策実習	林	30
9	花き装飾	選 択	2級フラワー装飾技能検定対策実習	新山	60
10	造園緑化	選 択	花修景実習Ⅲ	新井	30
11	造園緑化	選 択	造園施工・管理実習Ⅲ	新井	60
12	造園緑化	選 択	造園総合実習	新井	90
13	造園緑化	選 択	2級造園技能検定対策実習	新井	45
14	造園緑化	選 択	造園工学・施工論	新井	30
15	マーケティング	選 択	SNSプロモーション	中村	30
16	マネージメント	必 修	キャリアデザインⅡ	佐藤	30
17	マネージメント	選 択	基本簿記	佐藤	30
18	文化・利用	選 択	園芸文化研修	今西	30
19	文化・利用	選 択	盆栽実習	福本	15
20	植物管理	必 修	植物管理基礎実習Ⅲ	吉田	30
21	国際性	必 修	海外視察研修	新井	90
22	就業体験	選 択	インターンシップⅡ	各コース担当教員	60

必 修	150
選 択	885

Oマイスター科 2年（後期）開講科目

No.	分野	区分	科 目 名	担当教員	時間数
23	花き生産流通	選 択	スマート農業研修	白田	15
24	花き装飾	選 択	フラワービジネス演習	吉田	15
25	造園緑化	選 択	造園積算・施工管理演習	新井	15
26	造園緑化	選 択	公園・緑化概論	今西	15
27	マネージメント	選 択	植物ビジネス論	相田	15
28	就業体験	必 修	インターンシップⅢ	各コース担当教員	150
29			卒業研究・卒業制作(花き生産コース)	白田	
30	課題解決	必 修	卒業研究・卒業制作(花き装飾コース)	吉田	240
31			卒業研究・卒業制作(造園緑化コース)	相田	

必 修	390
選 択	75

令和6年度前期 授業評価アンケート結果について

○ 実施実績

・M2造園緑化コースは9月20日に、M1及びM2花き生産コース、花き装飾コースは9月25日に、令和6年度前期開講科目の授業評価アンケートを実施。
アンケート項目は以下の3つを設定。なお、項目の詳細は資料2-2, 2-3 参照。

- ① 到達度調査・・・シラバスに記載されている、授業ごとに複数設定される到達目標に対して、学生がどの程度習得できたかを自己評価。
- ② 授業満足度調査・・・学生が総合的に判断した満足度。
- ③ 授業に対するコメント・・・学生から各授業に対する自由記述のコメント。

○ 分析結果

① 到達度調査

・令和6年度はB評価の科目が無くなり、M1の各種検定対策実習3科目がS評価であった。
S評価の3科目は、検定試験に全員合格したことも要因と考えられる。

科目別の到達度総平均の分布

	S 100～90 (完全に習得できた)	A 89～80 (十分に習得できた)	B 79～70 (習得できた)	C 69～60 (概ね習得できた)	D 59 以下 (習得できなかった)
M1 開講授業 (15 科目)	3(0)	12(13)	0(2)	0(0)	0(0)
M2 開講授業 (22 科目)	0(0)	22(22)	0(0)	0(0)	0(0)

・3級園芸装飾技能検定対策実習(93.1)
・3級フラワー装飾技能検定対策実習(90.6)
・3級造園技能検定対策実習(92.6)

※括弧内の数字はR5年度前期の数値

② 授業満足度調査

・令和6年度は「普通」以下の科目が無くなり、検定対策実習3科目が「十分満足」の評価であった。そのうちM1の2科目は、検定試験に全員合格したことも要因と考えられる。

科目別の授業満足度平均の分布

	4 4.0 (十分満足)	3 3.9～3.0 (満足)	2 2.9～2.0 (普通)	1 1.9～1.0 (不満)
M1 開講授業 (15 科目)	2(0)	13(13)	0(2)	0(0)
M2 開講授業 (22 科目)	1(0)	21(22)	0(0)	0(0)

・3級園芸装飾技能検定対策実習(4.0)
・3級造園技能検定対策実習(4.0)
・2級園芸装飾技能検定対策実習(4.0)

※括弧内の数字はR5年度前期の数値

③ 授業に対するコメント

- ・各授業に対して、学生から多数の意見・感想が寄せられた。
- ・肯定的なコメントが多かったものの、改善を求めるコメントもあった。

【内容（一部抜粋）】

- ・1つひとつの花の撮り方についてもっと詳しく解説が欲しい。(M1: 商品動向リサーチ I)
- ・資料が見にくい。(M2: 基礎育種学)
- ・先生が一つの班につききりの時があったので全体を指導してほしい。(M2: フェューネラル実習)
- ・時間が少ない気がした。(M2: 造園総合実習)
- ・通訳さんのいない場面で外国の方が言っていることが全く分からず何も知ることができなかった。(海外視察研修)

○ 活用方法・改善方法

- ・担当教員から、学生のコメントへの回答やメッセージを記載し、学内に掲示を行う。
- ・授業の改善を求めるコメントを踏まえて、授業内容や進め方の見直しを進める。

令和6年度前期授業評価アンケート結果（M1）

①到達度調査・・・シラバスに記載されている、授業ごとに複数設定される到達目標（※）に対して、学生がどの程度習得できたかを自己評価したもの。

（※）到達目標は、1つの授業に対して最大4つまで設定。

・学生は、S（完全に習得できた）・A（十分に習得できた）・B（習得できた）・C（概ね習得できた）・D（習得できなかった）の5段階で到達目標ごとに自身の到達度評価を実施。

・集計時は、[S=95、A=85、B=75、C=65、D=55]の代表値に置換え、学生個人の『到達度』を算出。

②授業満足度調査・・・下記の観点から、学生が総合的に判断した満足度。

- ・授業のテーマは明確に示されていたか
- ・授業の難易度は適切であったか
- ・教科書や配布資料、パワーポイントなど理解できるものであったか
- ・質問や相談ができるよう配慮されていたか
- ・授業を通して、新しい知識や技術を得られたか

・[十分満足（4）・満足（3）・普通（2）・不満（1）]の4段階で評価。

資料2-2

【評価基準】

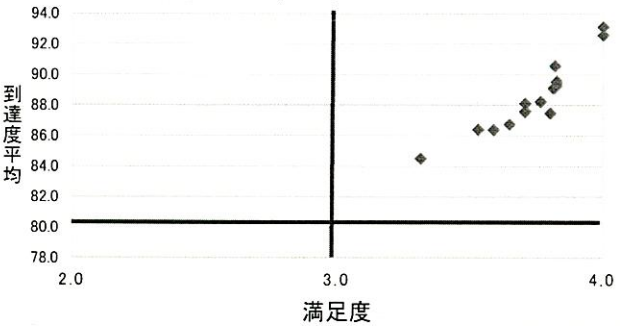
	100	90	80	70	60	0
代表値	95	85	75	65	55	
	S	A	B	C	D	
	完全に 習得できた	十分に 習得できた	習得できた	概ね 習得できた	習得 できなかった	

【満足度評価基準】

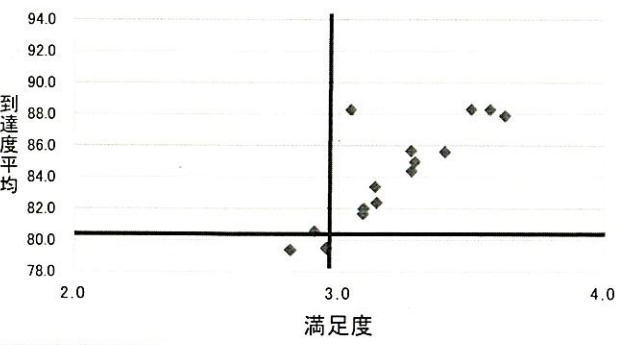
4	3	2	1
十分満足	満足	普通	不満

No.	授業名	履修 区分	分野	時間数	担当 教員	受講 者数	到達目標①		到達目標②		到達目標③		到達目標④		到達度 総平均		授業 満足度	
							目標	到達度 平均	目標	到達度 平均	目標	到達度 平均	目標	到達度 平均	R6	R5	R6	R5
1	栽培・生産論	必修	花き生産 流通	30	臼田	20	①土壌の性質及び肥料の動きについて 習得する	89.0	②病害虫対策について習得する	87.0	③かん水システムの特徴について習得 する	87.0	④岐阜県育成花きの特性を習得する	87.0	87.5	82.4	3.8	3.1
2	植物生理学	必修	花き生産 流通	30	前田	20	①植物体の構造とそこはたらきを理解 する。	89.7	②植物の代謝およびその制御方法を理 解する。	85.6	③環境制御による植物のライフサイク ルの調節方法を理解する。	86.8	④花の老化の仕組みおよび老化を防止 する方法を理解する。	90.9	88.2	82.0	3.8	3.1
3	花き生産実習	必修	花き生産 流通	90	臼田	20	①花きの繁殖方法を理解する。	90.9	②花きの栽培管理を習得する。	89.7	③花きの出荷調整を習得する。	86.8	④チームワークの重要性を理解する。	90.9	89.6	85.7	3.8	3.3
4	園芸流通概論	必修	花き装飾	30	臼田	20	①国内外の花きの生産状況を理解す る。	86.8	②卸売市場や農協の中間業者の役割と 機能を理解する。	87.9	③現場を視察し、最新の情報や商品に 触れて、園芸品目の流通を理解する。	89.7	④花きの小売店の現状や課題を理解す る。	86.2	87.6	83.4	3.7	3.1
5	園芸装飾実習Ⅰ	必修	花き装飾	30	吉田	20	①生活空間での植物の装飾方法および 家庭園芸での植物の維持管理方法を理 解する。	87.9	②制作した寄せ植えハンギングバス ケットなどを長期メンテナンスするこ とによって、管理方法を習得する。	86.2	③園芸装飾実技試験のデモンストレー ションを通し、観葉植物を使用した装 飾方法を習得する。	86.2	④春から秋にかけての植物の管理を習 得する。	86.8	86.8	81.7	3.6	3.1
6	フラワーデザイン実習Ⅰ	必修	花き装飾	60	林	20	①フラワーアレンジメントの基本技術 を習得する。	90.3	②花束の基本技術を習得する。	88.5	③フラワーデザインについての基本知 識を習得する。	89.7			89.3	84.4	3.8	3.3
7	3級園芸装飾技能検定対策実習	選択	花き装飾	30	村瀬	7	①3級園芸装飾技能検定合格水準の技 術力を習得する。	93.3	②3級園芸装飾技能検定合格水準の園 芸装飾に関する知識を習得する。	93.3	③実技試験内容を繰り返し制作練習す ることで装飾技術を習得する。	93.3			93.1	88.3	4.0	3.5
8	3級フラワー装飾技能検定対策実習	選択	花き装飾	30	安保	14	①3級フラワー装飾技能検定の合格水準 の技術力を習得する。	90.5	②実技試験内容を繰り返し制作練習す ることで基礎的な技術を習得する。	90.5	③学科試験のためのフラワーデザイン に関する知識を習得する。	91.4			90.6	87.9	3.8	3.6
9	造園学概論	必修	花き装飾	30	相田	20	①造園の全体像について理解する。	87.9	②日本と海外の庭園・造園やわが国の 公園制度などについて理解する。	83.8	③実際に造園空間を見学することによ り、様々な造園空間に対する知識を深 める。	87.9			86.4	79.4	3.6	2.8
10	花修景実習Ⅰ	必修	造園緑化	30	相田	20	①植物の成長と管理方法を継続的に記 録することができる。	85.6	②花壇の計画ができる。	87.4	③花を使った修景空間の視察調査を報 告することができる。	86.8			86.4	80.6	3.5	2.9
11	造園施工・管理実習Ⅰ	必修	造園緑化	60	新井	20	①造園施設（竹垣、敷石、レンガ舗装 など）の施工ができる。	86.2	②造園植物（樹木、下草、芝生など） の生育特性を踏まえた管理ができる。	87.9	③グループでの実習作業を行う際に、 コミュニケーションを取りながらチ ームで作業できる。	90.9			88.1	85.6	3.7	3.4
12	3級造園技能検定対策実習	選択	造園緑化	45	新井	4	①実技試験（製作等作業試験）に関 し、規定時間内に規定の寸法どおり におおむね完成することができる。	95.0	②実技試験（判断等試験）に出題され る樹木をおおむね判別することができる。	88.3	③学科試験の合格水準に達する程度の 知識を習得する。	95.0			92.6	88.3	4.0	3.6
13	商品動向リサーチⅠ	必修	造園緑化	15	臼田	20	①春夏期、上位150品目について、学 名や原産地や特徴や管理方法などを 知る。	83.2	②園芸やインターネットを利用した植 物の調べ方を知る。	90.3	③植物の写真の撮り方の基礎を知る。	89.7			87.6	88.3	3.7	3.0
14	植物管理基礎実習Ⅰ	必修	造園緑化	60	吉田	20	①春・夏期における植物の種類による 管理方法の違いを理解する。	89.7	②春・夏期における灌水技術を習得す る。	89.7	③春・夏期における温室の管理技術を 習得する。	88.5			89.1	85.0	3.8	3.3
15	Global Communication in HorticultureⅠ	必修	マーケティング	30	大脇	20	①英語の基本的な文法を反復練習に て習得する。	86.3	②自己紹介、挨拶等スモールトーク ができる。	83.8	③他国について学ぶ中で、自国や自 分自身への理解を深める。	85.6	④教科書の英文から各章の内容に 沿って、英国を理解するために必要な 情報を読み取る。	82.5	84.5	79.5	3.3	3.0

授業満足度と到達度平均の分布
（R6）



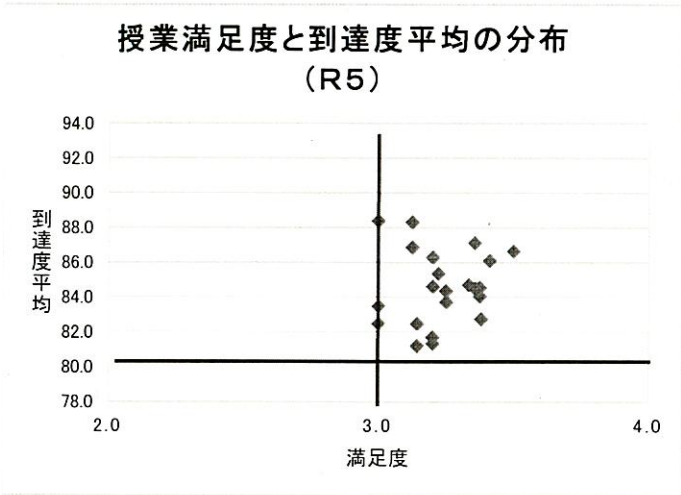
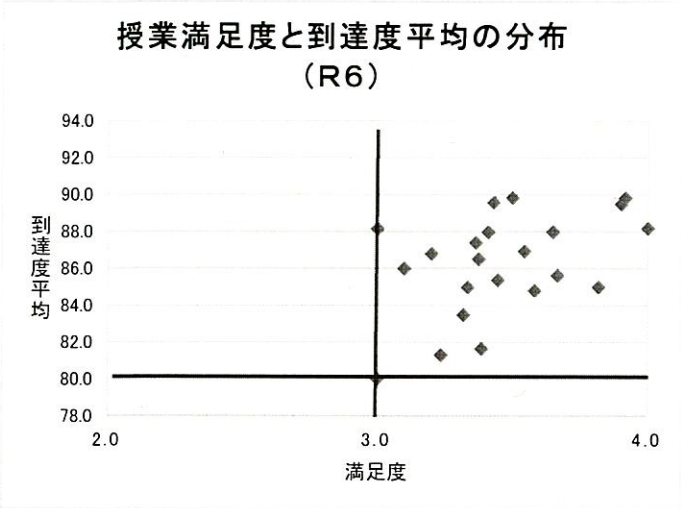
授業満足度と到達度平均の分布
（R5）



令和6年度前期授業評価アンケート結果（M2）

No.	授業名	履修 区分	分野	時間数	担当 教員	受講 者数	到達目標①		到達目標②		到達目標③		到達目標④		到達度 総平均		授業 満足度	
							目標	到達度 平均	目標	到達度 平均	目標	到達度 平均	目標	到達度 平均	R6	R5	R6	R5
1	生産マネジメント実習Ⅱ	選択	花き生産 流通	120	臼田	3	施設設計や品目、品種設定ができる。	81.7	温室の栽培管理ができる。	88.3	M1生指導を通じてリーダーシップを理解する。	85.0	作業内容のふり返りと必要な改善項目の報告ができる。	85.0	85.0	83.5	3.3	3.0
2	生産課題解決演習Ⅱ	選択	花き生産 流通	60	臼田	3	適切な課題研究テーマと調査内容を選択できる。	88.3	課題研究を通じて課題解決力を身につける。	88.3	課題研究内容を総括し、正しく伝えることができる。	88.3			88.2	81.7	3.0	3.2
3	基礎育種学	選択	花き生産 流通	30	前田	11	植物の遺伝の仕組みを理解する。	86.8	様々な育種の方法について知る。	87.7	交配育種に必要な基本的知識および技術を習得する。	86.8			86.9	83.8	3.5	3.3
4	フラワー装飾演習	選択	花き装飾	60	林	14	空間を花で飾る技術を習得する。	81.9	花き装飾の歴史的かつ文化的行事などの知識を習得する。	78.8	花の原価について知る。	83.5	フローリストとしての発想力や応用力を習得する。	82.7	81.7	84.7	3.4	3.3
5	ウェディング実習	選択	花き装飾	30	脇田	11	デザイン力、提案力、応用力を習得する。	83.2	ウェディング装花のトータルコーディネートを経験し、空間を花で飾る技術を習得する。	83.2	チームワーク、コミュニケーション能力の重要性を理解する。	88.6	ウェディングの基礎知識を習得する。	85.0	85.0	84.1	3.8	3.4
6	フューネラル実習	選択	花き装飾	30	村瀬	12	デザイン力、提案力、応用力を習得する。	84.2	フューネラル装花のトータルコーディネートを経験し、空間を花で飾る技術を習得する。	83.3	チームワーク、コミュニケーション能力の重要性を理解する。	88.3	フューネラルの基礎知識を習得する。	86.7	85.6	84.4	3.7	3.3
7	装飾技術スキルアップ実習	選択	花き装飾	45	吉田	12	フローリストとしての発想力や応用力を習得する。	84.2	フローリストとしてフラワーデザインに関する知識を習得する。	84.2	課題に取り組むことでフローリストとしての作業所作を習得する。	86.7			84.8	84.6	3.6	3.4
8	2級園芸装飾技能検定対策実習	選択	花き装飾	30	林	1	2級園芸装飾技能検定合格水準の技術を習得する。	85.0	級園芸装飾技能検定合格水準の園芸装飾に関する知識を習得する。	95.0	実技試験内容を繰り返し制作練習することで装飾技術を習得する。	85.0			88.2	88.4	4.0	3.0
9	2級フラワー装飾技能検定対策実習	選択	花き装飾	60	新山	10	2級フラワー装飾技能検定の合格水準の技術力を習得する。	89.0	学科試験のためのフラワーデザインに関する知識を習得する。	90.0	実技試験練習を繰り返すことでフローリストとしての作業所作を習得する。	90.0			89.5	86.7	3.9	3.5
10	花修景実習Ⅲ	選択	造園緑化	30	新井	11	有料公園における花修景の植栽計画・植物の特性・年間管理を理解する。	84.0	グループでの実習作業を行う際に、コミュニケーションを取りながらチームで作業できる。	88.0					86.0	87.1	3.1	3.4
11	造園施工・管理実習Ⅲ	選択	造園緑化	60	新井	7	造園施設（園路舗装、建仁寺垣など）の施工ができる。	86.4	造園植物（樹木、下草、芝生など）の生育特性を踏まえた管理ができる。	86.4	グループでの実習作業を行う際に、コミュニケーションを取りながらチームで作業ができる。	93.6			86.8	86.9	3.2	3.1
12	造園総合実習	選択	造園緑化	90	新井	7	造園空間の計画・設計・施工までの一連の作業の流れを理解することができる。	89.3	これまで他科目で学んだことを本科目で活かして実習することができる。	87.9	グループでの実習作業を行う際に、コミュニケーションを取りながらチームで作業ができる。	92.1			89.6	88.3	3.4	3.1
13	2級造園技能検定対策実習	選択	造園緑化	45	新井	5	学科試験の合格水準に達する知識を習得する。	92.5	実技試験（製作等作業試験）に関し、規定時間内に規定の寸法どおりに完成することができる。	87.5	実技試験（判断等試験）に出題される樹木を判別することができる。	90.0			89.8	86.3	3.5	3.2
14	造園工学・施工論	選択	造園緑化	30	新井	6	2級造園施工管理技術検定の第一次検定について合格水準に達するよう知識を習得する。	80.0							80.0	82.5	3.0	3.0
15	SNSプロモーション	選択	マーケティング	30	中村	11	YouTubeの仕組みを理解する。	85.0	クリップチャンプ等の動画作成アプリを使って動画編集できる。	88.8	YouTubeにプロモーション動画（作品）をアップロードする。	86.3			86.5	81.2	3.4	3.1

資料2-3



令和6年度 ぎふワールド・ローズガーデンを活用した授業実績(前期)

○ 実施実績等

全 体

	利用授業 時数	展示 時間数	活用効果	課題	施設利用 の改善点
R6 前期実績 (R5 前期実績)	137 (100)	208 (0)	より実践的な授業により 理解が深まり、来園者と の交流によりコミュニケ ーション力向上が期待で きる。	往復1時間の移 動時間が教育上 の時間ロスとな る。	シャワー室、 更衣室を使用 する時間がな い。
R6 後期予定 (R5 後期実績)	76 (87)	64 (0)			
R6 合計 (R5 合計)	213 (187)	272 (0)			

各コース

	活用効果	課題
花き生産コース	・豊富な植物種・量を有する場で突然変異や病害虫の調査、探索を行うことで、「植物を見る視点」を体験できた。 ・販売の準備、設営、販売シュミレーションを通じて、自主的に役割分担を行うなど緊張感をもって取り組めた。	・授業の往復や事前の下調べに時間を要する。
花き装飾コース	・式典準備を行うことで、会場装花の一連の流れを学ぶことができた。 ・作業場の清掃や作業安全等の必要性を学べた。 ・人に見られる作品を制作する意識を学生に持たせることができ、技術力向上に繋がる。	・授業準備が学内に比べ何倍もの時間を要する。 ・規模の大きな場所での作業となるため、教員の目が行き届かない場合あり。 ・一般来場者に見てもらえることが一番のメリットだが、花トピアは来場者が訪れにくい。
造園緑化コース	・県営公園の植栽管理手法が学べる。 ・公園内全体の花壇の見頃となる時期をどのようにスケジュール管理しているか学べる。 ・実習フィールドを活用した造園計画、造園施工を学ぶことが出来る。	・移動ロスを減らすため、終日実習を行っているが、9月でも35℃を超える中での終日の実習は危険を伴う。 ・履修者数が少ないと花壇の植え替えが授業でなく作業になってしまう。 ・作庭に必要な資機材の運搬に時間と労力がかかる(教員)。 ・庭づくりに残土等発生するため、公園職員に運搬、処分してもらう必要がある。

○ 改善に向けて

- ・ぎふワールド・ローズガーデンの活用による実践的な教育効果を活かし、移動による授業時間ロスを削減するため、授業内容や進め方、時間割の見直しを進める。
- ・公園利用の改善に向けて、公園管理者との事前調整により役割を明確にする。

授業科目名	担当 教員	対象	使用日	利用授 業時数	展示時 間数※	使用場所				備考	活用効果	活用の課題	施設利用の改善点
						花トピア 研修室	花トピア 展示展示 スペース	温室	実習 フィールド				
盆栽実習	相田	2 年選択者18名	2024/4/3	8		○		○			・作品制作後、公園内で展示ができる	・公園スタッフ、非常勤講師との打ち合わせが必要でオペレーションが複雑になる ・道具を学校から運搬する必要がある ・移動時間が必要 ・毎日メンテナンスが必要 ・展示後、作品運搬が必要・公園スタッフ、非常勤講師との打ち合わせが必要でオペレーションが複雑になる	・温室の雨漏り ・ぎふワールド・ローズガーデンに鍵箱の設置
		2 年選択者18名	2024/4/4	7		○		○					
		2 年選択者18名	2024/4/5 ～4/7		24		○			盆栽作品展示			
造園施工・管理実習Ⅲ	新井	2 年選択者7名	2024/4/15	4					○		・県営公園内の植栽管理を行うことができる。	・往復 1 時間の移動時間が教育上の時間ロスとなっている。	・鍵の開閉について、各教員にスベアキーの配布 ・シャワー室、更衣室は使用する機会（時間）がない
花修景実習Ⅲ	新井	2年選択者11名	2024/4/17	4					○		・県営公園における植栽管理の手法を学ぶことができる。 ・公園内全体の花壇の見頃となる時期をどのようにスケジュール管理しているのかを学べる。 ・花壇に植栽する植物について、外部講師から実際の管理経験に基づいた知識を得ることができる。 ・来園者から声をかけられることもあり、来場者とのコミュニケーションを図ることができる。	・往復 1 時間の移動時間が教育上の時間ロスとなっている。 ・移動時間のロスを減らすため、終日で実習を行っているが、9 月でも 3 5℃を超えている中での終日の実習は危険を伴う。 ・もともとは必修授業で 2 0 名程度で花壇の植替え、メンテナンスを行う施設規模となっているが、選択授業に変更となり、履修者が半分程度となっている。さらに休む学生も多く、秋の植替え時には 7 名の学生で作業を行った。約 3 分の 1 の人数では授業ではなく、作業となってしまふ。この日の気温も高かったため、学生が熱中症となる可能性が高い。 ・植替え作業が完了しない場合、後日教員が作業をしなければならないことがある。	・鍵の開閉について、各教員にスベアキーの配布 ・シャワー室、更衣室は使用する機会（時間）がない ・ 2 F 研修室は荷物置き場と昼食をとる場所として使用 ・展示販売スペースが整備されて、花トピア内に入出入りするのが事務室前の出入り口のみとなった ・既存で使用している倉庫スペースを返還するように指定管理者から要望あり。倉庫の増設が必要。 ・研修室のカギが一つしかなく、指定管理者が使用している際に使えないことがある。 ・現状の倉庫は実習フィールドから離れており、道具の運搬に時間を要する。
		2 年選択者11名	2024/5/8	8		○			○				
		2年選択者11名	2024/5/31	4					○				
		2 年選択者11名	2024/6/19	6		○			○				
		2年選択者 11名	2024/9/18	8		○			○				
造園総合実習	新井	2年造園緑化コース7名	2024/5/27	4					○		・実習フィールドを活用した造園計画、造園施工を学ぶことができる。	・往復 1 時間の移動時間が教育上の時間ロスとなっている。 ・移動時間のロスを減らすために終日の実習としているが、9 月でも 3 5℃超えの中での実習は危険を伴う。日差しも強いためテントを設営して実習を行っているが、テントの設営撤去時間も見込まなければならない。 ・作庭に必要な資機材を学校から公園まで運搬するのに、時間と労力がかかる。1 往復では運べないほど資材がある時もあるため、半日以上時間を要する場合もある。 ・開園日に資材を搬入する度に公園職員に立ち会ってもらう必要がある。 ・庭づくりを行う際に、極力、残土が発生しないように計画するが、どうしても残土は発生してしまう。それを公園職員に運搬、処分してもらう必要が発生する。	
		2年造園緑化コース7名	2024/9/6	8		○			○				
		2年造園緑化コース7名	2024/9/10	8		○			○				
		2年造園緑化コース7名	2024/9/13	8		○			○				
		2年造園緑化コース7名	2024/9/20	6		○			○				
		2年造園緑化コース7名	2024/9/24	8		○			○				
園芸装飾実習 I	吉田	1 年 2 0 名	2024/4/15	4		○				園内の視察	<園内視察> ・ 1 年生の 4 月に行うことで、公園管理業務の概要について現場の声を聞きながら学ぶことができ、業界への理解を深めることができる。 ・園内の管理や装飾を見ることで、今後の授業で学ぶ園芸の知識・技術の活かし方を知ることができ、学習意欲の向上に繋がると考えられる。	学校からの距離。移動手段。授業時間が短縮される。 植栽物の成長を観察できない。制作物のメンテナンスに適した時期に行えない。	学校で学べることは学内で学び、学内で出来ないことをローズガーデンで行うべき。 学内に授業を GWRGIに移行するのは時間的にも作業的(準備・片付け)にも無駄が多い。
フラワー装飾演習	林	2 年花き装飾コース12名	2024/4/19	4		○	○				<実践教育フィールド開設披露会対応> ・式典準備を一から行うことで、会場装花の一連の流れを学ぶことができる。また、会場に合った装飾方法及びそれに必要な資材・花材について学ぶことができる。 ・準備中、一般来場者から声をかけられることもあり、来場者対応によるコミュニケーション力の向上が期待できるとともに、作業場の清掃や作業安全等の必要性についても学ぶことができる。	・学校との距離があるため、移動時間を考えると、活用頻度が上がれば上がるほど授業時間の損失が大きい。 ・学校との距離があるため、授業準備が学内で準備するより何倍もの時間を要する。 ・花トピア内は活用を始めたばかりで教員も勝手がわからなかったということもあり、資材の置き場や鍵の開閉など、細かなところで時間をロスしてしまい、効率的に授業を行うことが困難であった。	
		2 年花き装飾コース12名	2024/4/24	2			○			披露会展示			
		2 年花き装飾コース12名	2024/6/17 ～6/26		72		○			制作作品展示9日間			
装飾技術スキルアップ実習	吉田	2 年花き装飾コース12名	2024/4/22	4			○				・準備だけでなく当日対応も行ったことで、来賓へのコサージ付けや記念品配布等、その場でしか経験できない作業を体験することができるだけでなく、展示物については実際に来場者の声を聞くことができるため、作品のブラッシュアップに繋げることもできる。 <常設展示コーナーへの作品展示> ・学内の授業で制作した作品を常設展示コーナーに展示することで、人に見られる作品を制作するという意識を学生に持たせることができ、技術力向上に繋がる。 ・既設の常設展示コーナーに毎回異なる作品を展示していくことで、ディスプレイ技術の向上が期待できる。	・学内での実習と比較して規模の大きな場所での作業となるため、教員の目が行き届かない場合がある。 ・一般来場者に作品や作業の様子を見てもらえることが一番のメリットであると考えられるが、実習フィールドは東ゲートに近く、来場者が訪れにくい。（展示物への意見や感想が得られにくい可能性がある。）	
		2 年花き装飾コース 2 名	2024/4/23	4			○			披露会展示販売準備			
		2 年花き装飾コース12名	2024/6/21	4						花飾りメンテナンス			
		2 年花き装飾コース 2 名	2024/6/26	4						花と緑の連携授業補助			
フラワーデザイン実習I	林	1年 20名	2024/6/26 ～7/3		56		○			制作作品展示7日間	<展示コーナーへの作品展示> ・学内の授業で制作した作品を展示コーナーに展示することで、人に見られる作品を制作するという意識を学生に持たせることができ、技術力向上に繋がる。 ・既設の常設展示コーナーに毎回異なる作品を展示していくことで、ディスプレイ技術の向上が期待できる。	・一般来場者に作品や作業の様子を見てもらえることが一番のメリットであると考えられるが、実習フィールドは東ゲートに近く、来場者が訪れにくい。（展示物への意見や感想が得られにくい可能性がある。）	
		1年 20名	2024/7/26 ～ 7/28		24		○			制作作品展示3日間			
ウェディング実習	林		2024/9/20 ～9/23		32		○			制作作品展示4日間			
生産マネジメント実習Ⅱ	臼田	2年花き生産コース3名	2024/4/23	4			○			披露会展示販売準備	4/24実践教育フィールドの開設披露会に向けて、販売用花苗準備、販売設営、販売シュミレーションを行った。 生産コース2年生3名と少人数で、披露会の来賓、一般来場者への対応を想定した準備を行うことで、接客・袋詰めなど学生間の役割分担を自主的に行うなど、緊張感をもって取組む事ができた。	・日程の決定が遅かったため、授業の段取りが難しかった。	
生産課題解決演習	臼田	2年花き生産コース3名	2024/4/24	8			○			披露会展示販売	実践教育フィールドの開設披露会の当日販売準備、披露会参加、花苗販売を行った。生産コース2年生3名と少人数で、披露会の来賓、一般来場者への接客・袋詰めなど緊張感をもって取組む事ができた。	・日程の決定が遅かったため、授業の段取りが難しかった。	
基礎育種学	前田	2 年選択者11名	2024/5/24	4		○					育種上重要な枝変わり、突然変異の探索を行った。豊富な植物種・量を有するワールド・ローズガーデンで探索を行うことで、「育種家としての植物を見る視点」を体験することができた。 また、展示販売スペースで開催中の班入り植物展で、専門家から班の入る遺伝的な仕組みや班入り植物の園芸業界における価値などの講話を聴くことができた。	・往復に時間を要するため、実質的な授業時間は短くなる。 ・事前の下調べを行うのに、半日時間が取られてしまう。	
栽培・生産論	臼田	1年 20名	2024/7/16	4		○					ばらを中心に病害虫、生理障害の解説後、園内の植物の病害虫の調査を行い、10種類の病害虫を観察できた。	授業時の往復や事前の下調べに時間を要する。	

分野別授業の実施状況：①花き生産流通分野

科目名	栽培・生産論
履修区分 (受講人数)	必修 (20 名)
開講時期	1 年・前期
時間数	30 時間
担当教員	臼田浩通

[授業の目的]

本科目では、土壌、肥料、かん水システム、病虫害及び農薬、肥料などについて解説し、花き生産はもとより園芸店や植物管理で必要な花き栽培の基礎知識の修得を目的とする。

今年度よりぎふワールド・ローズガーデンを病虫害の観察フィールドとして活用することで、バラを中心に多様な病虫害観察と同定を体験することを目的とする。

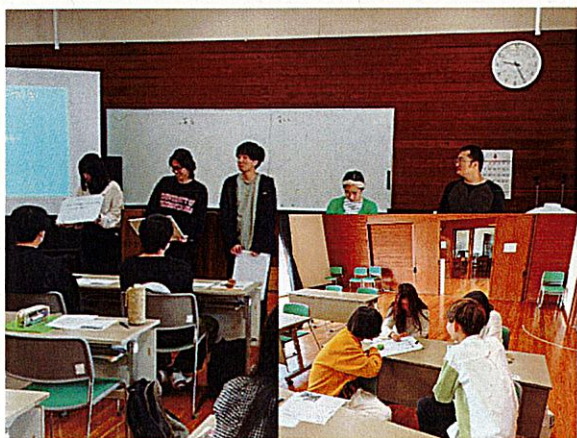
[授業の内容]

●授業の到達目標

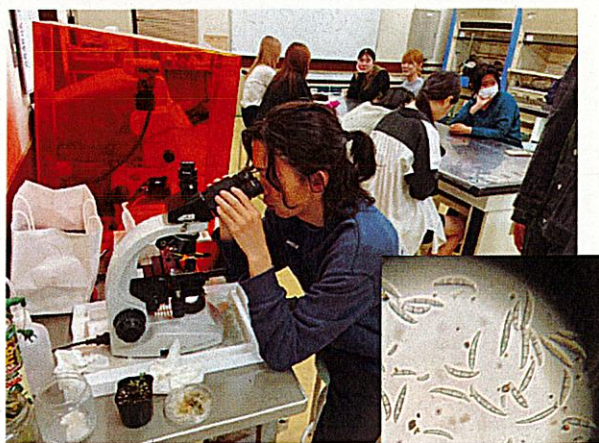
- ① 土壌の性質及び肥料の働きについて習得する。
- ② 病虫害対策について習得する。
- ③ かん水システムの特徴について習得する。
- ④ 岐阜県育成花きの特性を習得する。

●授業の進め方

- ・授業の理解を深めるため、講義だけではなくグループで考え発表するグループワークや、顕微鏡でフザリウム菌やセンチュウの観察して病名を同定するなど、体験を取り入れた授業を行った。



グループワークの発表



顕微鏡での観察

- ・特に病害虫については、実際に観察して特徴を知ることが大切であることから、ぎふワールド・ローズガーデンにおいて、バラの病害虫を習得する授業を7月16日（火）に2コマ実施した。

【進め方】

花トピア2F研修室で、ばらの病気4種類、害虫8種類の見分け方のポイントについて解説。

4名毎のグループに分かれ、ばら園で病害虫の調査と同定。

研修室に戻り、各グループで記録した病害虫の報告と確認。

ばらの主な病気

うどんこ病
発生適温：18～25℃
施設栽培で発生しやすい。葉の表面や花蕾に白い粉状のものが生える。多湿条件下で発生しやすい。

黒星病
発生適温：20～25℃
露地栽培で雨が降くと発生しやすい。葉の表面に黒い円形や不規則形の病斑ができ、葉は黄変し脱落する。

灰色かび病
発生適温：15℃前後
施設栽培で発生しやすい。花の表面や花蕾に灰色の病斑が生じ、花蕾は腐敗する。初めに花蕾に発生した小病斑を生じ、のちに花全体が灰色のかびに覆われる。

根頭がんしゅ病
発生適温：25℃前後で多湿を好む。
細菌は根の傷口や接ぎ木部分から侵入し、接ぎ木部分や根にコブをつくる。日中はしおれ、夜間回復するのを繰り返す。しだいに青枯れのまま枯れる。罹病株、根も腐爛し、茎を切ると維管束から白色の液がにじみでる。

ばらの主な害虫Ⅰ

アザミウマ
多発時期：4～7月
体長1～2mmで黒又は黄色の体色である。花を吸汁すると花弁が凋落したりかすり状になる。

チュウレンジバチ
多発時期：5～7月
体長8mmで成虫は黒く、幼虫はオレンジ色で茎に卵を産みつける。幼虫は群がって茎を食害するため、多発すると茎を残して丸坊主になる。

クロケシツブチョッキリ
多発時期：5～6月
体長は3mm程度の小さなゾウムシ。新梢や蕾の下を口咬を刻し、新梢や蕾が萎れる。這つくとボトリを落ちるため発見しにくい。

ハスモンヨトウ
多発時期：6～10月
幼虫は葉を食害してかすり状にする。中・終齢幼虫は葉縁から葉脈を残して丸坊主にする。

ばらの主な害虫Ⅱ

コガネムシ類
多発時期：6～8月
コガネムシ類は多くの種類が蕾や花弁を食害する。

ゴマダラカミキリ
多発時期：6～7月
バラの株元に産卵し、幼虫は茎の中に入り食害するため、株元が衰弱して枯死する。

ハダニ類
多発時期：6～10月
高温で乾燥が続くと発生しやすい。葉の表面がかすり状になり、葉裏にいる。多発すると多くの果状になる。

アブラムシ類
多発時期：5～9月
蕾や新梢に発生しやすく、多発すると黒いススや白い脱皮殻が目立つ。

ばらの主な障害

葉害
高温時(30℃以上)の農薬散布により上位葉が縮れる。

鉄欠乏症状
鉄欠乏により新梢が黄化する。土壌の高いpH又は根の障害により発生しやすい。

バラの病害虫の観察資料

[次年度の開催に向けて]

- ・学生の授業評価アンケートでは「ぎふワールド・ローズガーデンで実際に病害虫を探したり症状を調べたりすることで、見分け方の難しさを実感でき良かった。」という意見もあり、実際に見ることで理解が深まるが見分け方の習得には時間が不足した。
- ・来年度に向けては、バラだけでなく他の花きの病害虫の知識を深めるため、ぎふワールド・ローズガーデンでの授業時間を増やす。

分野別授業の実施状況：②花き装飾分野

科目名	装飾技術スキルアップ実習
履修区分 (受講人数)	選択 (12 名)
開講時期	2 年・前期
時間数	45 時間
担当教員	吉田・林・村瀬

[授業の目的]

1 年生の「フラワーデザイン実習Ⅰ・Ⅱ」で学んだ花き装飾の知識と技術を確実に自分のものにすべく装飾技術を磨き、デザインの幅を広げ発想力を豊かにし、実践的なフラワー装飾の技術の習得を目的としている。

●ぎふWRGで実施する目的

人に見せる作品を制作するという意識を学生に持たせることができ、展示コーナーに毎回異なる作品を展示していくことで、ディスプレイ技術の向上につながることを目的としている。また、来園者やぎふWRGの職員から声をかけられることにより、コミュニケーション能力の向上や作業場の準備や清掃等の必要性について学ぶことも目的としている。

[授業の内容]

●授業の到達目標

- ① フローリストとしての発想力や応用力を習得する。
- ② フローリストとしてフラワーデザインに関する知識を習得する。
- ③ 課題に取り組むことでフローリストとしての作業所作を習得する。

●授業の内容

4月22日



披露会花材仕入れ



ディスプレイシミュレーション



花束制作シミュレーション

4月23日



アーティフィシャルフラワーでの花車装飾

6月21日



ヨーロッパデザインアレンジメントのディスプレイ

6月26日



花と緑の連携授業フラワーアレンジメント講師

[次年度の開催に向けて]

人に見せる作品を制作する意識や、人に見られながら制作する緊張感など、学生にプラスになることも多い。実習時間が短縮されるデメリットなどとバランスを取りながら、引き続き、制作作品のディスプレイやぎふWRGで行えるイベントは積極的に行っていきたい。

分野別授業の実施状況：③造園緑化分野

科目名	花修景実習Ⅲ
履修区分（受講人数）	選択（11名）
開講時期	2年・前期
時間数	30時間
担当教員	新井俊宏、上野恵（外部講師）

〔授業の目的〕

『花修景実習Ⅱ』に続き、ぎふワールド・ローズガーデンを実習地とするこの実習は、有料公園における花修景の手法として、一年草を中心とした植栽計画・管理方法の習得を目的とする。

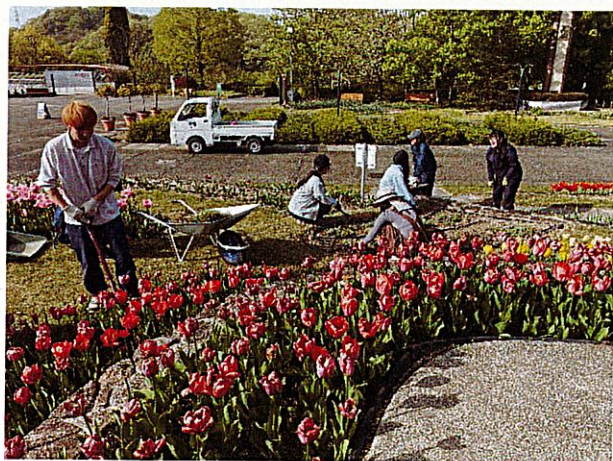
〔授業の内容〕

●授業の到達目標

- ① 有料公園における花修景の植栽計画・植物の特性・年間管理を理解する。
- ② グループでの実習作業を行う際に、コミュニケーションを取りながらチームで作業できる。

●授業の内容

- ・実習フィールド花壇の春から秋の期間中の植栽（植替え）および維持管理を行った。
- ・公園全体として、どこの花壇をいつ見頃にして、来園者にPRしていくかを考慮したうえでの維持管理作業内容を決定する。
- ・春花壇の維持管理、夏花壇の植栽（植替え）、夏花壇の維持管理、秋花壇の植栽（植替え）
- ・花壇の面積が約90m²程あり、夏花壇の植栽では、約1,000株、秋花壇の植栽では約1,200株の花苗の植栽を行った。
- ・柵田をイメージした花壇は石積み際にあり、奥側は手が届きにくく、作業がしにくいデザインとなっている。



春花壇の維持管理



夏花壇の植栽（植替え）



夏花壇の維持管理



秋花壇の植栽（植替え）

〔次年度の開催に向けて〕

- ・今年度の履修者は11名で、かなり少ない人数であった。
- ・植栽の実習は花壇の規模に対して11名では少なく、作業ばかりとなってしまう。
- ・来年度に向けては履修者を増やせるように学生へ働きかけていく。
- ・人数が少ない傾向が続くようであれば、一年草花壇から宿根草花壇への変更を検討する必要がある。
- ・来年度開催される全国都市緑化ぎふフェア期間中の当該花壇の植栽計画について、外部講師と検討をすすめている。
- ・ぎふワールド・ローズガーデンまでの移動時間のロスを少なくするために、植栽時には終日で実習を行っているが、秋花壇の植栽時期はまだ暑さが厳しく、終日の実習は熱中症などの危険性があるため暑さ対策やカリキュラムの変更が必要となっている。

分野別授業の実施状況：④文化・利用分野

科目名	盆栽実習
履修区分 (受講人数)	選択 (18名)
開講時期	2年・前期
時間数	15時間
担当教員	福本 野恵 (外部講師)

〔授業の目的〕

盆栽は日本の伝統的な園芸文化でありながら、現代の日本人には「古臭い」イメージを持つ人が多いのか、これらを楽しむ人や伝統を受け継ぐ人が減少している。これに対して、海外では盆栽の精神性や芸術性が高く評価され愛好者が増え続け、今では bonsai は「Cool Japan」の中心である。本科目では盆栽を専門講師から基礎を学び、実際に制作する事によって、盆栽の精神性、芸術性を理解して、その魅力を承継してゆく。ぎふワールド・ローズガーデンで授業を開催することにより、完成した盆栽作品をすぐに公園内（花トピア）で展示し、来園者に観賞して頂くことが可能である。（4月3～4日の集中授業）

〔授業の内容〕

●授業の到達目標

- ① 盆栽の歴史、精神性について知る。
- ② 盆栽の剪定、針金掛け、植え替えを習得する。
- ③ 盆栽を通して自然観を表現できる。

●授業の内容

1. 盆栽概論 盆栽の歴史と神髄、現在の盆栽ブームについて



(写真1) 盆栽概論（講義室）



(写真2) 外部講師が制作した盆栽作品の解説（温室）

2. 盆栽制作① 材料、花材の解説



(写真3) 材料（軽石）と植物材料の選択

3. 盆栽制作② 芽摘み、剪定



(写真4) 制作方法の説明

4. 盆栽制作③ 針金掛け



(写真5) マツの針金掛けの説明



(写真6) 軽石にドリルで穴開け、針金を接着

5. 盆栽制作④ 土作り、植え替え



(写真7) 土作り (ケト土を練る)

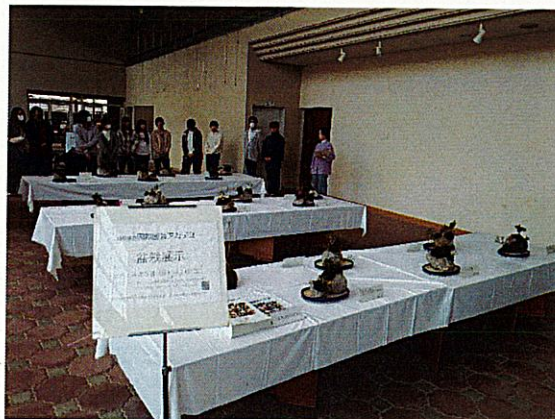


(写真8) 植え替え

6. 評価 講評、評価



(写真9) 自分の作品の説明と講評 (展示室)



(写真10) 展示 (3日間)

[次年度の開催に向けて]

学生にとって初めての盆栽制作であったが、見ごたえのある作品となり公園内で展示することができた。実習中は「授業中」、展示中は「盆栽展示」と看板を設置し、パンフレットとともに学校の広報活動に努めた。今年度の実習・展示の流れをひとつの型として、次年度はよりよい授業を展開したい。

令和7年度 ぎふワールド・ローズガーデンを活用した授業計画

使用時期	授業開講 学年	区分	授業科目名	担当 教員	利用授 業時数	展示 時間数	使用場所				備考
							花トピア 研修室	花トピア 販売展示 スペース	温室	実習 フィールド	
4月	2年	選択	盆栽実習	臼田	15		○		○		
4月	2年	選択	盆栽実習	臼田		24		○			盆栽作品展示
4月	1年	必修	園芸装飾実習Ⅰ	吉田	4		○				園内の視察
4月	2年	選択	造園施工・管理実習Ⅲ	新井	4		○			○	
4～6月	2年	選択	花修景実習Ⅲ	新井	22		○			○	
5月	2年	選択	基礎育種学	前田	4		○				
4～6月	2年	選択	造園総合実習	新井	4		○			○	
6月	2年	選択	フラワー装飾演習	林		72		○			制作作品展示
6月	1年	必修	フラワーデザイン実習Ⅰ	林		56		○			制作作品展示
6月	1年	必修	栽培・生産論	臼田	8		○				バラ園などで病害虫調査
7月	1年	必修	フラワーデザイン実習Ⅰ	林		24		○			制作作品展示
7～9月	2年	選択	造園総合実習	新井	38		○			○	
9月	2年	選択	ウェディング実習	林		32		○			制作作品展示
10～12月	1年	選択	造園施工・管理実習Ⅱ	新井	8		○			○	
10～12月	1年	必修	花修景実習Ⅱ	新井	12		○			○	
10月	1年	必修	イベント販売実習	前田	8						場所は雅周辺の芝生広場
10月	2年	必修	卒業研究・卒業制作（花き生産コース）	臼田	8						
10月	1年	選択	フラワーデザイン実習Ⅱ	林		24		○			制作作品展示
11～12月	2年	必修	卒業研究・卒業制作（造園緑化コース）	新井	28		○			○	
11～12月	2年	必修	卒業研究・卒業制作（造園緑化コース）	相田	44		○			○	
12月	1年	選択	フラワーデザイン実習Ⅱ	林		32		○			制作作品展示
12月	2年	必修	卒業研究・卒業制作（花き装飾コース）	吉田		32					制作作品展示

207 296 ※展示1日＝8時間とする
503

【参考】交付対象事業の重要業績評価指標	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
当該施設における実践的な授業時間	366	386	396	406

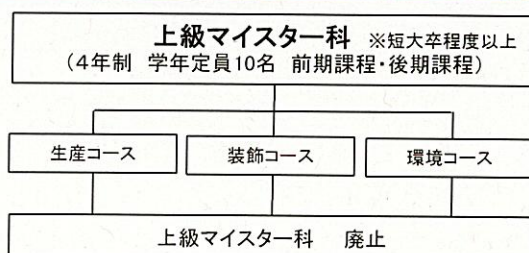


2024年、岐阜県立国際園芸アカデミーは 開学20周年を迎えました。

国際園芸アカデミーは園芸のプロを目指す人のための県立の専修学校として、2004年の開学以来20年間で約400名の卒業生を輩出し、花と緑の産業を支える人材を育成してきました。この節目の年に20年を振り返りながら、関係者や地域の皆さまのご支援に感謝するとともに、卒業生や在校生、教職員の絆を一層深め、さらに本学の魅力向上に取り組んでまいります。

学校組織の変遷

2004年4月
開学

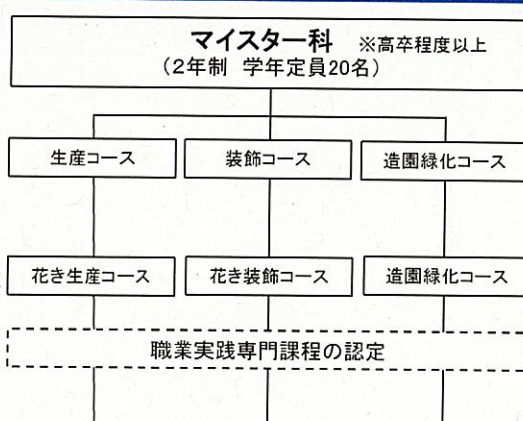


2013年3月

2013年4月

2018年2月

コース名変更



職業園芸人を目指す人へ
マイスター科



国際園芸アカデミー20年のあゆみ 人材育成の実績

上級マイスター科

(2013年3月廃止)

上級マイスター科は、開学から2013年3月の廃止までに、53名が入学し、43名が卒業しました。

(生産コース:前期課程10名・後期課程2名、装飾コース:前期課程8名・後期課程15名、環境コース:前期課程4名・後期課程4名)

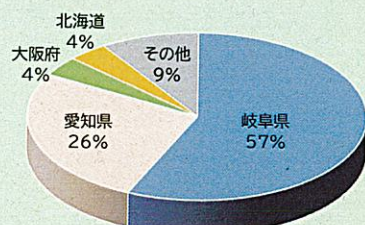
出身地では、岐阜県内が約6割と最も多く、次いで愛知県となっています。

卒業生のうち、約4割が岐阜県内に就職し、3割が愛知県に就職しました。

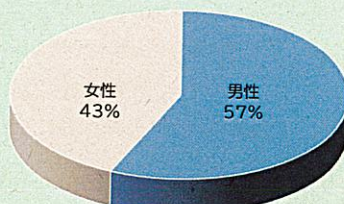
業種としては、造園設計・施工関係が全体の34%と最も多く、次いで生花園芸店・装飾業界、公園管理・観光業界となっています。

現在では、自ら会社を設立し、各地域で関連業界のリーダーとなっている卒業生も数多くいます。また、海外で活躍する卒業生もいます。

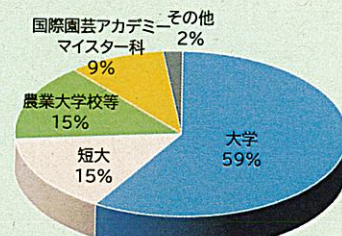
入学時



入学生の出身地

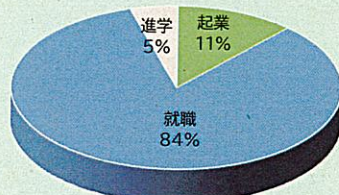


入学生の男女比

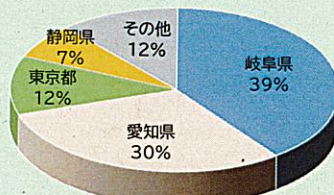


入学生の出身学校

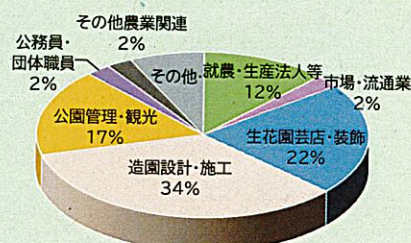
卒業時



卒業生の進路



就職先の地域



就職先の業種

マイスター科

マイスター科は、開学から2023年4月までに412名が入学し、2024年3月までに355名が卒業しました。

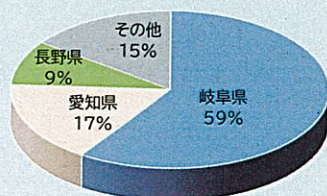
(花き生産コース:84名、花き装飾コース:142名、造園緑化コース:129名)

出身地では、岐阜県内が約6割と最も多く、県外では、愛知県、長野県が多くなっています。

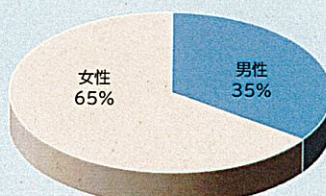
卒業生のうち、約4割が岐阜県内に就職し、3割が愛知県に就職しています。その他出身地に戻って就職する学生もいます。

業種としては、生花園芸店・装飾業界が46%、次いで造園設計・施工関係が23%となっています。公務員・団体職員や公園管理・観光業界に進む卒業生もいます。

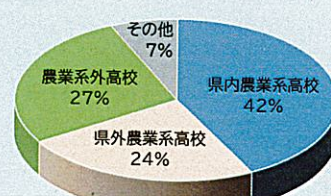
入学時



入学生の出身地

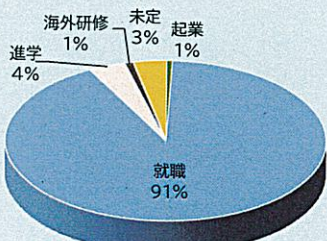


入学生の男女比

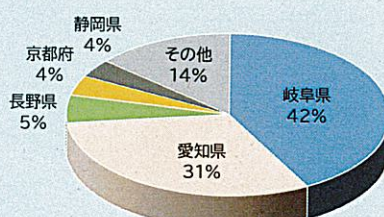


入学生の出身学校

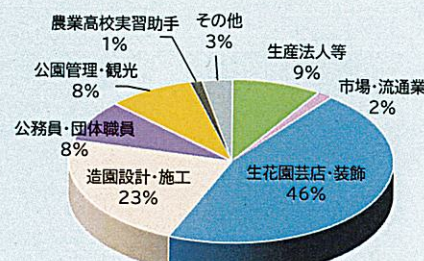
卒業時



卒業生の進路



就職先の地域



就職先の業種

国際園芸アカデミー20年のあゆみ 主な受賞歴(競技大会・コンテスト等)

※全国レベルでの大会を抜粋

上級マイスター科

(2013年3月廃止)

国際バラとガーデニングショウ(バラとガーデニングコンテスト)

年度	回	部門等	参加チーム等	成績
H18	第8回	ガーデン部門 サイズB	3年生チーム	準優秀賞
H19	第9回	ガーデン部門 サイズB	造園・装飾ゼミ	優秀賞
H20	第10回	ガーデン部門 サイズA	上級マイスター科 チーム	入賞

世界のバラと美しいガーデニングを紹介する国内最大規模の祭典として1999年から2018年まで毎年5月に旧西武ドームで開催。

その他

年度	コンクール等名	参加チーム等	成績
H19	全国学校ビオトープ・コンクール (高校生以上の部)	環境コース	銀賞
H21	浜松モザイクカルチャー世界博2009	上級マイスター科 チーム	文化賞
H21	第9回ぎふ 建築・生活・芸術系学生・生徒優秀作品展	3年 大澤 功	最優秀賞

フラワードームあいち花フェスタ(フラワーディスプレイコンテスト)

年度	大会名	参加チーム等	成績
H18	フラワードーム2007	3年 服部郷子	奨励賞
H19	フラワードーム2008	装飾コース	銀賞
H20	フラワードーム2009	装飾コース	銅賞
H21	フラワードーム2010	装飾コース	銅賞

生産額全国一の愛知県の花が競演する「あいち花フェスタ」と、国内で最も歴史のある「名古屋国際蘭展」がひとつになった日本最大級のフラワーイベントで、1998年から2011年までナゴヤドームで開催。



第10回バラとガーデニングコンテスト(入賞)
(2008年5月)



フラワードーム2008(銀賞)
(2008年3月)

マイスター科

技能五輪全国大会

年度	回	競技職種	学年	出場学生	成績
H22	第48回	フラワー装飾競技	2年	池戸 彩笑子	敢闘賞
			2年	吉原 菜々未	敢闘賞
H24	第50回	フラワー装飾競技	2年	小栗 早希	敢闘賞
H27	第53回	フラワー装飾競技	2年	村瀬 萌衣	敢闘賞
H29	第55回	フラワー装飾競技	2年	江尾 星	敢闘賞
H30	第56回	フラワー装飾競技	2年	加納 沙乙里	敢闘賞
R1	第57回	フラワー装飾競技	2年	柴田 明日香	銀賞
			2年	高瀬 古都乃	敢闘賞
R5	第61回	造園競技 (チーム)	2年	梅木 夕佳 宮本 端姫	敢闘賞

国内の青年技能者(原則23歳以下)を対象に、技能競技を通じ、青年技能者に努力目標を与え、技能に身近に触れる機会を提供するなど、広く国民一般に対して技能の重要性や必要性をアピールし、技能尊重機運の醸成に資することを目的として実施する大会。(42職種)

若年者ものづくり競技大会

年度	回	競技職種	学年	出場学生	成績
H30	第13回	造園職種	2年	杉山 直樹	敢闘賞
R4	第17回	造園職種	1年	宮本 端姫	銅賞

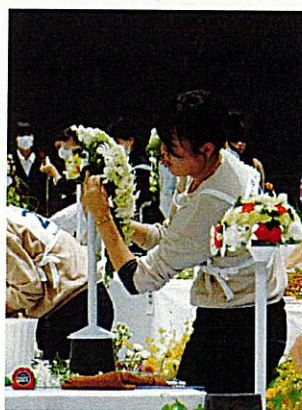
職業能力開発施設、工業高等学校等において技能を習得中の若年者(原則20歳以下)であり、企業等に就業していない者を対象に、技能競技を通じ、これら若者に目標を付与し、技能を向上させることにより就業促進を図り、併せて若年技能者の裾野の拡大を図ることを目的として実施する大会。

全国造園デザインコンクール

年度	回	区分・部門	学年	参加チーム等	成績
R2	第47回	大学・一般の部 実習作品部門	2年	造園緑化チーム	佳作
R3	第48回	大学・一般の部 実習作品部門	2年	造園緑化チーム	佳作
			1年	造園緑化チーム	入選
R4	第49回	大学・一般の部 実習作品部門	2年	造園緑化チーム	佳作
R5	第50回	大学・一般の部 実習作品部門	2年	造園緑化チーム	佳作

(一社)日本造園建設業協会主催。昭和49年にはじまり、造園のデザインと製図技術の向上を図る目的で実施されている。

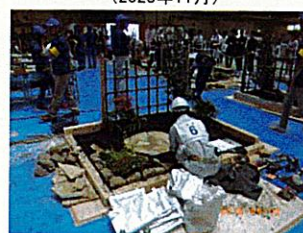
応募条件を一般・大学生・高校生の3部に分け、課題は「住宅庭園」「街区公園」「商業施設」「実習作品」の4部門と高校1・2年生を対象とした「緑化フェア(みどりの広場)プラン」部門がある。



第57回技能五輪全国大会
フラワー装飾競技(銀賞)
(2019年11月)

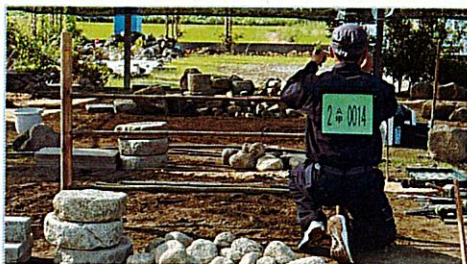


第61回技能五輪全国大会
造園競技(敢闘賞)
(2023年11月)



第13回若年者ものづくり競技大会
造園職種(敢闘賞)
(2018年8月)

国際園芸アカデミー 20年の取り組み



資格取得のサポート

業界の第一線で活躍する非常勤講師による対策実習を開講するなど、技能検定（園芸装飾・造園・フラワー装飾）や造園施工管理技士等の花と緑に関連が深く、即戦力として必要になる資格の取得をサポートしています。



花と緑の連携授業

高等学校等の授業の一部を本学の教員が講師として受け持ち、花と緑に関する魅力ある授業を展開しています。草花の栽培や育種、花き流通、フラワー装飾、造園、都市緑化など国際園芸アカデミー教員ならではの多彩で魅力的な授業を行っています。



国際交流

モロッコ、ベトナム、中国などからの研修生を受け入れるとともに、モロッコに本学教員を派遣するなど国際交流を進めてきました。令和元年度からは、フランスの教育機関との交流を開始し、令和5年には、研修生1名を受け入れました。



技能五輪全国大会

「フラワー装飾」職種は平成22年度から毎年岐阜県代表として出場し（卒業生を含む）、上位入賞者を輩出しています。令和元年度からは「造園」職種でも岐阜県代表として出場しており、令和5年度は敢闘賞を受賞しました。



各種コンクールへの挑戦

上級マイスター科（平成25年3月廃止）では、全国規模のコンクールに参加し、多くの入賞を果たしてきました。マイスター科では、全国造園デザインコンクールや県内農林業教育機関の発表大会などに積極的に参加しており、優秀な成績を修めています。



海外視察研修

マイスター科2年生の必修科目として、園芸の本場であるイギリスを中心とした欧州での海外視察研修を行ってきました。新型コロナの影響で、一時国内研修に振り替えていましたが、令和6年度から海外での研修を再開しています。（令和6年度はシンガポール）



ぎふワールド・ローズガーデンの活用

ぎふワールド・ローズガーデン内に実習フィールドを設け、花壇管理や庭園制作の実習をしています。令和5年度には花トピアを本学のサテライト施設として改修整備し、令和6年度から作品展示、販売実習などで本格的に活用し、実践教育を強化しています。



オープンキャンパス・学校見学会

学生募集活動として、年間を通して学校見学会を行うとともに、夏休みにはオープンキャンパスを開催しています。オープンキャンパスでは、学校の概要や入試説明、模擬授業体験や施設案内などをを行い、本学についての理解を深めています。



自治体・企業との連携・協力

令和5年度までに県内の5自治体・3企業と連携・協力協定を締結し、公園整備への助言、自治会活動の支援など様々な活動を行っています。地域貢献活動や技術研鑽の場として、活動に参加する学生の貴重な体験の場にもなっています。



ボランティア活動

ぎふワールド・ローズガーデンでの管理作業や関ヶ原町の休耕田での植栽作業、花と緑のイベント支援など、学生は様々なボランティア活動に参加しています。こうしたボランティア活動を通じて地域社会とつながることで、新たな経験や気づきが得られます。



学園祭(なんじゃ祭)

学園祭は、本学のシンボルツリーでもある「ナンジャモンジャノキ」から名付けて「なんじゃ祭」と称しています。学生会が主催し、例年6月に開催され、実習で栽培した花苗の販売や花束づくり体験教室など、地域の方々との交流を通して、本学の魅力を発信しています。



生涯学習講座

「花と緑」に関心のある一般の方や園芸業界の実務者、卒業生等を対象とした生涯学習講座を開講しています。講座では、アカデミーの教員が講師となって、ニーズに応じた内容で、講義や実習を行っています。



Home Page



Facebook



Instagram



岐阜県立 国際園芸アカデミー
Gifu International Academy of Horticulture

〒509-0251 可児市塩1094-8
☎ 0574-60-5250(代)
✉ info@horticulture.ac.jp

(2024年6月版)